

バマ・ギャルボ氏 Q&A  
質問があればどうぞ



**Q** 私の国、インドは貧富の差が大きいです。もし、教育制度や法律などが変わってきたら、その差はなくなりますか。(3年/アラン・マシュー)

**A** インドは来年、総選挙があります。それに向けて現政府が一番心配しているのは貧富の差をどう縮めるかで、教育やインフラ整備に相当の力を入れています。一晩では解決しないけれど、着実に、大きくインドは変わってきています。インドの地方、特に農村地帯と都市部との関係についても、政権の行方にかかわらず、継続的に対応していくことが必要です。そうすれば、2020年頃までには変化があると思います。インドの弱点は連邦制であることです。中央政府が諸外国に「どうぞ来てください」といっても、地方政府が許可しないこともある。インドは立派な法治国家ですが、もっと法整備を進める必要があると思いますね。



**Q** 少子高齢化が進む中、私たち若い世代はどのように国づくりを進めていったらいいのですか。(2年/金 美沙希)

**A** 個人的な考えですが、近年は夫婦共働きが多いですが二人で働いても、より裕福になったかという必ずしもそうではない気がします。理由の一つは、国の経済政策、社会の仕組み。昔は2世代3世代が同居して、子どもは祖父母に面倒を見てもらえました。今は、若者が結婚して子どもを育てようと思ったら、都会では保育園などに入れなければなりません。もう一つは親は子どもを甘やかし、子どもは子どもで親のスネをかじり続ける人が増えています。よりよい国づくりのために必要と思う私の答えとしては、もう一度大家族主義を取り戻すことです。子どもや孫がいればお年寄りにも刺激になりますし、経済的にも夫婦二人と大家族では食事をすることも負担は小さいでしょう。子どもは大事な宝です。私たちが受け継いだ素晴らしい世界を、次の世代に引き継いでいきましょう。



**Q** 夢を持とうにも、不景気などで諦めてしまう人たちがいます。そういった状況を改善するにはどうしたらいいのですか。(3年/玉澤 信雄)

**A** 障害があっても諦めるような夢は、夢ではありません。夢を持つということは簡単なことではなく、叶えるためには工夫や努力、知恵が必要で、七転び八起きの精神を持って臨まないと実現できません。険しい道をどう越えるか、それ以前に、ターゲットにたどり着くための道があるとも限らないんです。皆さんは、好きなスポーツや勉強をしている時、苦労と思いませんか？ 思わないでしょう。目標を持ってれば、つらいと思わない力を持てるのです。夢に向かって小さな目標を立て、その目標を一つひとつ越えていくと、言葉で表せない達成感が味わえます。そしてさらに強くなる。諦めようと思ったら理由はいくらでもありますが、それを乗り越えることで自分が大きくなります。頑張ってください。

ざお金を払って外国に行かなくても、国際交流がここで学べますね。海外から学びに来ている人たちは、将来それぞれの国のエリート、リーダーになる人たちです。今のうちにそういう人たちと仲よくしておくことが大事です。アメリカや英国の立派なところは、大学に各国の王様や大統領の子どもを5%ぐらい入学させて、その人たちと自分たちの学生が友達になることによって将来的なコネができると考えていることです。そしてもう5%は、お金はないけれど勉強したい頭のいい子たちを入れるんです。彼らは学ぶチャンスを与えられ、一生懸命勉強しますから、学校全体の雰囲気もよくなります。日本には世界の偉い人たちの子どもなん

て来てないですよ。ハーバードやオクスフォードが世界に影響力を持っているからです。オイスカ高校には幸いにして、いろいろな鼻の形、目や、皮膚の色が違う人たちがいます。しかし、みんな悲しい時は泣き、けがをしたら赤い血を出して、うれしかったら笑う同じ人間です。そして、能力も同じです。豊かな環境だったから勉強しやすいとか、多少環境によって違いがあるかも知れませんが、自分自身が努力すれば誰でも優秀です。ただ、優秀であっても能力を破壊に使うか創造に使うか、その違いは大きいですね。皆さんには、何が正しいか分別ができる青年であってほしいです。

**真の国際人となるために**  
それから、ご父兄の皆さんに訴えたいのは、尖閣諸島問題、竹島問題は高みの見物をする問題ではなくて、自分自身の未来に直結しているということなんです。子孫に問題を残さないように強い姿勢で臨むこと。幸い今回連で、野田首相は日本人にはめずらしいくらい率直に明確にこの問題について発言されました。そういう首相に対して声援を送るのが国民の義務だと思います。高校生の皆さんには、なるべく地球的な規模で物を見てもらいたい。最近ではコンタクトで青い目をしたり、髪を染めたりしている人がいます。アメリカ人や英国人ばく見えるかも知れませんが、

アメリカ人や英国人にはなれないんです。自分は自分であることが国際社会のためになることです。綺麗な庭には赤い花、青い花、小さい花、いろいろあるからいいんです。人間も同様です。それぞれがかけがえない存在なのです。ある時は70億分の1の極めて貴重な存在であり、ある時は70億分の1に過ぎない小さな存在です。この切り替えができる柔軟性としなやかさを持つてもらいたいですね。真の国際人とは、郷に入れば郷に従うだけの能力、知識を持ち、その切り替えがうまくできる人であって、自分自身を失うことではありません。それをお伝えし、私の講演を終わりにいたします。ありがとうございました。